

大井町立上大井小学校

研究テーマ：一人ひとりが輝き、みんなが安心して学べる授業づくり

1 実践の目的

本校では、「自立する子どもの育成」という学校教育目標のもと、「学び合い、できた喜びを実感できる授業」をテーマとして、算数科と特別の教科道徳の実践を通して、研究を進めてきた。その中で、主体的な学びにつながる「めあての設定」、対話的な学びにつながる「学び合い」、深い学びにつながる「振り返り」を三つの柱とした。1年目は「めあての設定」、2年目は「学び合い」、そして3年目（昨年度）は「振り返り」に重点を置いて研究に取り組み、その成果を「上大井学びのスタンダード」としてまとめた。

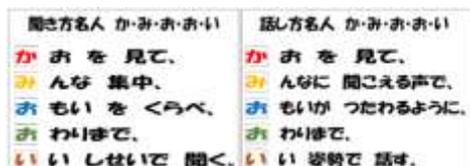
一方で、基礎基本の定着に課題のある児童が一定数おり、学力の差が感じられたり、できる子が中心となった学び合いになったりする課題が見られた。そこで、「苦手な子も一人ひとりが輝ける授業にすること」「どの子も安心して学べる環境をつくること」が必要であると考え、「一人ひとりが輝き、みんなが安心して学べる授業づくり」をテーマとして設定した。

2 実践の内容

(1) 学習の基盤づくり

①聞き方名人・話し方名人「かみおおい」

昨年度までの聴き方名人に加え、今年度は話し方名人「かみおおい」も作成することで、児童の話す力、聴く力の育成をめざした。



②学びのあしあと

校内に算数コーナーを作成することで、算数の学習への意欲を高められるようにした。また、各学級に道徳コーナーを作成することで、児童がいつでも学習を振り返ることができるようにした。

③人権感覚を醸成する教師の働きかけ

児童の人権感覚を醸成するためには、教師の温かい言葉かけが大切である。教師が児童のよかった言動をたくさん見つけ、認めることで、児童の手本となったり、自己肯定感を高めたりできるようにした。

例 自力解決で途中までしかわからなかった児童が先に考えを発表することで、「わからなくても大丈夫。みんなで考えよう。」という温かな雰囲気の中で学習できるようにした。

④教室環境の整備

教室環境を整備することで、児童が落ち着き、安心して学習に向かうことができるようにした。

例 ・黒板周りのシンプル化
・デジタルタイマーの活用

(2) 授業のユニバーサルデザイン化

①授業における五つの視点

星槎大学教授 阿部利彦先生の著書を参考に、授業のユニバーサルデザイン化をめざし、次の5つの視点を設定した。

・ひきつける ・結びつける ・方向づける
・そろえる ・実感できる

②5つの視点を取り入れた授業の実践例

○ひきつける

算導入で具体物を提示することで、児童が問題に関心をもちやすくなった。

道デジタル教科書を活用した範読で、視覚的に物語を理解しやすくなった。



○結びつける

算前時や友達の考えとの違いを考えることでめあてを設定した。

道動作化や心情のメーターなどの思考ツールを使うことで、登場人物と自分の気持ちを結びつけた。



○方向づける

算児童の困り感を共有することで、学び合う内容を焦点化した。

道道徳コーナーを振り返り、本時の学習内容を方向づけた。

○そろえる

算導入で前時の復習問題に取り組むことで、既習事項の理解をそろえた。

道範読後にあらすじを整理することで、教材について理解をそろえた。



○実感できる

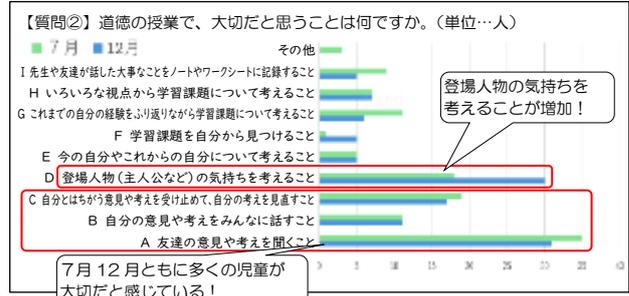
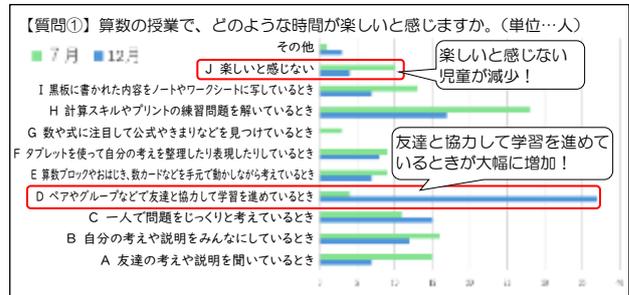
算適用問題に何問取り組みたいかを決めてから進めることで、一人ひとりが「できた」を実感できるようにした。

道振り返りの際に、登場人物への手紙や役割演技を通して道徳的価値を自分事として実感できるようにした。

3 実践の成果と課題

(1) アンケート結果から見る児童の変容

7月と12月に町で共通したアンケートを行ったところ次のような変容が見られた。



(2) 教員の見取りによる児童の変容

今年度の研究を通して、次のような児童の変容が見られた。

○プラス面(成果) ●マイナス面(課題)

- 「わからない」を素直に表現できるようになってきた。
- グループ活動や役割演技を取り入れたことで、児童が自分の思いを話しやすくなった。
- 楽しそうに学び合っているが、基礎基本の定着が十分でない。
- 話し合いの際に一方向的に伝えたり、参加していなかったりする児童がいる。
- 道徳で、教材に対して自分事として考えることが十分でない。

次年度のキーワード! 「算数→基礎基本」「道徳→自分事」「学び方→相手意識のある話し方・聞き方」

4 今後の展開

このように、学習の基盤づくりと授業のユニバーサルデザイン化をしてきたことで、児童の変容が見られた。しかし、一方で、基礎基本の定着、相手意識をもって話し合うこと、道徳で自分事として考えることには課題が見られた。次年度は、今年度の成果や課題を生かしながら、一人ひとりが基礎基本を確実に身に付けることができるよう、研究を進めていく。

参考文献

・「授業のUD Books 通常学級のユニバーサルデザイン プラン Zero2 授業編」(阿部 利彦 2015年)